第1学年 算数科学習指導案

活動日 平成14年2月16日
 授業者 松本 則子
 活動場所 1年4組 教室(校舎1階西)

1. 単元名 「おおきなかず」 (全15時間)

2. 単元について

本単元では、100までの数を、10がいくつと、あといくつというように、構造的な捉え方ができること、100までの数を位取り記数法を使って書いたり読んだりできること、また、10進位取り記数法に基づいて、くり上がり、くり下がりのない2位数までの加法、減法の計算ができることがねらいとなっている。

児童は、20までの数の加法、減法の計算を、おはじきやブロックなどを使って考えたり、計算力を定着させるためにコンピュータを使って繰り返し練習したりしてきた。

そこで、本単元での学習では、10のかたまりとばらを意識してブロックなどを操作しながら計算の仕方を考え、計算できるようにしたい。そのために、個人追求の場や、全体交流の場では、ブロックなどで十分操作させることを通して数概念を養いたい。前時の復習やまとめで、10のかたまりとばらに着目できるようにプロジェクターでブロック操作を提示しながら、計算の仕方を確認し、計算力の定着を図っていきたい。

3. 願う子どもの姿

100までの数(簡単な3位数を含む)を数えたり、読んだり、書いたりすることができる。くり上がりや、くり下がりのない2位数までの加法、減法を数のしくみ(10進位取り記数法)に基づいて計算することができる。

4. 研究内容との関わり

研究内容 に関わって (基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのった単元指導計画の在り方)

前時の復習や、まとめにブロックなどの操作を段階的に示すことにより、10のかたまりとばらを意識させ、計算の仕方を確認し、計算の仕方を定着させるようにする。

研究内容 に関わって (基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

半具体物を全員の児童が操作することで、計算の仕方について一人一人が考えを持つ場を確保する。

研究内容 に関わって (基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

ブロックを操作するとき口でつぶやきながら言わせたり、友達がブロックを操作するのに合わせて復唱せたりすることで、計算の仕方の理解を図る。

5. 単元指導計画

		ね ら い	主 な 学 習 活 動	自 ら 学 ぶ 姿 の 育 成
第 一 次	1 6	<ul style="list-style-type: none"> 2位数の構成、その読み方、書き方を理解し、いろいろなものを数え、数字で表すことができる。 100の構成、読み方、書き方を理解し、用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の個数を10のまとまりをつくらせて数え、数字を用いて表す。 位取りの板を活用して空位のある2位数を、数字を用いて表す。 指示された数(100未満)だけ、正しく数える。 100という数の構成や大きさを多面的な見方をする。 数表を使って、100までの数の並び方を調べ、その特徴(順列・順序)をつかむ。 	絵・ブロック・位取り表・数表など様々なものを用いて、2位数の構成や、読み方、書き方を理解する。
第 二 次	7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> 100より大きい数の構成、読み方、書き方を理解し、用いることができる。 2位数(簡単な3位数を含む)の系列順序を理解し、大小を比較することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 100より大きい数を(簡単な3位数)を100とあといくつという見方をして、数字を用いて表す。 数表を使って100より大きい数の並び方を調べ、100までの数と同じ規則になっていることに気づく。 数直線を見て、数の大小、順序系列などを調べることができる。 	100より大きな数を数表や数直線などを活用して特徴に気づく。
第 三 次	10 11 本 時 15	<ul style="list-style-type: none"> 何十と何十の加法、減法の計算原理を理解し、計算することができる。 何十と何十の、何十と1位数の加法(繰り上がりなし)の計算の原理を理解し、計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 10を単位にして何十と何十の加法と減法の計算の仕方を考え計算する。 何十何と何十の加法の計算方法を考えて計算する。 何十何と1位数の加法の計算方法を考えて計算する。 何十何と何十の減法の計算方法を考えて計算する。 何十何と何十何の減法の計算の方法をを考えて計算する。 	前時の計算方法をもとにして今日の問題との違いに気づき、課題を理解する。 ブロック操作を自分でを行い、一人一人が計算方法を考える。

6. 本時の目標 (1 2 / 1 5)

32 + 7 のような加法の計算は, 10 のかたまりとばらに分けて操作するとよいことに気づき, 正しく計算することができる。

7. 本時の評価規準

数学的な考え方	10 や 1 などの単位 (十の位や一の位) に着目して, 加法, 減法の計算に慣れ親しむ。
表現・処理	何十何と 1 位数の加法 (くり上がりなし) の計算ができる。

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 評価 支援												
つかむ	<p>1. 前時までの計算問題の練習をする。 50 + 30, 40 + 20, 80 + 20, 34 + 20, 19 + 80</p> <p>2. 問題を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おりがみを 32 まいもっていました。ともだちから 7 まいもらいました。ぜんぶでなんまいになったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・立式する。 <p>3. 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>32 + 7 の計算の仕方を考えよう</p> </div> <p>4. 課題を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のたし算とのちがいを見つける。 ・ ブロックや, まる図を使って計算する。 	<p>プロジェクトで前時までの計算の仕方を確認する。</p> <p>正しく立式できたか。たしざんの場面であることを押さえる。</p> <p>位取り板, ブロック, まる図</p> <p>10 のかたまり, ばらに着目して操作できているか。</p>												
ふかめる	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">十のくらい</td> <td style="width: 25%;">一のくらい</td> <td style="width: 25%;">十のくらい</td> <td style="width: 25%;">一のくらい</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	十のくらい	一のくらい	十のくらい	一のくらい									<p>友達のやり方を唱えながら, 半具体物を操作させる。</p> <p>プロジェクトで計算の仕方を確認する。</p>
十のくらい	一のくらい	十のくらい	一のくらい											
まとめる	<p>5. 計算の仕方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>32 + 7 の計算は、十十の位をそのままにし、一一の位の 2 + 7 の計算だけすればよい。</p> </div> <p>6. 練習問題を解く。 46 + 2, 61 + 7, 35 + 3, 83 + 4, 6 + 51, 7 + 62</p>													